

こんにちは！日野農業改良普及所です。

第5号となった「かわら版」ですが、今回のテーマは「集落営農」です。

また、日野普及所は、定期人事異動によるスタッフの変更はありませんでした。今年度もよろしくお願ひ致します。

○集落営農(前年日南町取組結果と杉谷、久住の動き)

日野郡では平成27年2月に日南町3集落で農事組合法人が設立しました。昨年の3法人設立に引き続き、地域の話し合いが進んだ結果であり、一部の集落では水稻依存型からの脱却も視野に入れた取り組みも計画し、経営発展を目指しています。

1. 日野郡集落営農法人の概要(平成25年度まで)

日野郡の集落営農法人は江府町で1法人、日南町で6法人です(うち3法人は設立から10年以上経過)。

2. 法人化に踏み切った理由

- 内部留保の必要性がでるなど、法人化するきっかけがあった。
- 地域の女性活力を活かしたい、多角化により農家所得を上げたい。
- 農地中間管理事業の後押しもあり法人化に踏み切った。



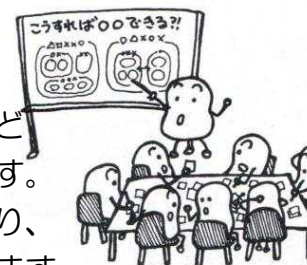
3. 普及所の支援

- ①複数回の座談会、事務手続きの支援
- ②先進地への視察研修
- ③6次産業化、集落営農等の研修会の開催
- ④先輩法人との面談 など

4. 今後の動き

最近日野町、江府町で集落営農の動きが見え始め、特に江府町杉谷集落、日野町久住集落で話し合いが進んでいます。

地元の農地をどうしていくか、集落皆で出来ることはないかなど積極的に議論が行われ、地域発展の計画作成をしているところです。具体的には、集落アンケート等を実施しながら方向性を模索したり、事業の活用は勿論、既存機械の有効利用も考えながらすすめています。これから各町でモデルとなる経営体となるよう支援していきます。



(お問合せ)日野農業改良普及所 電話0859-72-2025

(新規就農)渡辺(6次産業化)木下(作物)石倉、金川(野菜)小谷(畜産)米村(花卉)福本(果樹)高濱

※この「かわら版」は隔月発行予定です。日野農業改良普及所HPよりからも閲覧出来ます。

○「和牛王国・日野」復活に向けて

かつて日野郡は、日本を代表する優良な和牛の生産地として全国各地から、購買者が集まる和牛王国として君臨していました。

近年は郡内和牛飼養農家数は64戸にまで減少しましたが、現在も和牛の優良産地として、H26年度の和子牛1頭の平均販売価格は約56万円（県平均約52万円）（日野普及所調査）と高値水準です。また和牛放牧場も整備され、飼養環境も整っています。

H25年には、日南町で和牛生産の新規就農者もあり、母牛22頭にまで増頭する計画で取り組んでおられます。

昨年、県畜産試験場より「白鵬85の3」及び「百合白清2」の日本一となった種雄牛が出現し、高価格で取引されています。県・町からは積極的な補助事業も展開されており、現在の和牛の情勢は、大変に活気に満ちています。

耕種農家の方も含め、興味の有る方は是非普及員にお声かけください。



種雄牛 「白鵬85の3」



「百合白清2」の産子の肉質

○「低コスト型ハウス+ゴロン太」でトマト早期栽培試験開始

4月14日、日南町阿毘縁にある日南試験地で新ストーブの‘ゴロン太’を設置した低コストハウスにトマトの定植が行われました。低コスト型ハウス（耐雪型）は強度の高いパイプを使用し、従来のものより設置間隔を広げることで約25%（286万円/3a→212万円/3a）のコスト削減をしています。また、‘ゴロン太’は最大約8時間の燃焼し続けると報告されています。4月定植のトマトでの試験が始まりましたので、興味のある方は是非日南試験地までお越し下さい。



奥の黒い装置がゴロン太



普及所長
高口

農家の皆さんに知ってほしいニュース、情報を今年もかわら版でお届けします。
普及所は皆さんの新しい取り組みを共に考え、応援します。



新規就農担当 渡辺



畜産担当 米村



水田作物担当 石倉



花卉担当 福本（広域）



6次産業化担当 木下



野菜担当 小谷



水田作物担当 金川



果樹担当 高濱（広域）